

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月に全国の小・中学校で実施されました学力・学習状況調査の結果の分析と、今後の小・中学校の取組についてお知らせします。調査内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、英語【中学校のみ】）と生活習慣や学習環境等に関する調査（児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査）です。

Ⅰ 教科に関する調査に関して（成果○ 課題□）

<小学校>

「国語」は、県や全国よりやや高い平均正答率でした。

○考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること。

□文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

「算数」は、全国よりやや低く、県と同程度の平均正答率でした。

○百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めること。

□立方体の体積の計算による求め方を理解すること。

<中学校>

「国語」は、県や全国よりやや低い平均正答率でした。

○段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫すること。

□表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと。

「数学」は、全国よりやや高く、県と同程度の平均正答率でした。

○累積度数の意味、箱ひげ図と四分位数の対応について理解すること。

□反比例の関係を表す表の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めること。

「英語」は、全国よりやや高く、県と同程度の平均正答率でした。

○日常的な話題について、話を聞いて、概要を捉えること。

□日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文書を書くこと。

国語では特に、自分の考えを確かにしたり、考えが伝わるように表現を工夫したりする力を身に付けていくことを大切にします。そのために、自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識できるように働きかけていきます。

算数・数学では、具体的な活用場面を通じて理解を深めていくことを大切にします。また、判断の理由や問題解決の方法を、数や言葉を用いて数学的に説明する力をさらに伸ばしていきます。そのために、問題解決の見通しを立てる場面において、自分の考えた解決の方法を表現してみることや、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかをまとめてみることを繰り返し行っていきます。

英語では、使える語彙や表現を増やし、まとまりのある文章を書いたり話したりする力を付けることを大切にします。そのために、短い文章を読む活動を充実させ、読んだ文章から参考になりそうな内容や表現を選んで書いたり、書く前にテーマについて事実や自分の考えを整理する活動を位置付けたりしていきます。

<今後の取組>

質問紙と問題との相関関係を分析すると、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向がみられることが明らかになりました。それらも踏まえて「よりよい未来を築いていく力」を育成するために、以下のことを行っていきます。

○子どもたち自身が課題を見つけ、解決の見通しを立てて自ら考え、仲間と関わり合いながら、より理解を深めていく「子どもが主役」の授業づくりをさらに推進していきます。

○学習のねらいに基づき、個に応じた指導と集団の学びのよさを生かした指導の一体的な充実を図っていきます。その際、今年度より新たに導入しているiPadを「調べる・考える・話し合う・振り返る」などの活動を行う基盤的なツールとして効果的に活用していきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査について

<学習の状況や生活の様子について>

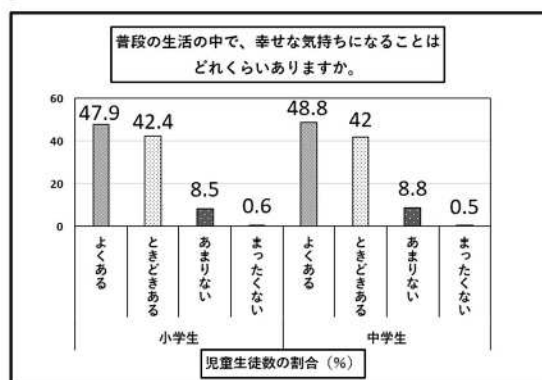
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問事項に対して、小学生の約75%、中学生の約90%が「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。
- ・小学生の約72%、中学生の約86%が、授業や学校生活では、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答しています。中学生の数値は、県や全国よりも高くなっています。仲間と交流し、様々な意見に触れたり考えたりすることを楽しいと感じる児童生徒は、問題の正答率が高くなっています。
- ・小学生の約90%、中学生の約96%が、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答しています。小中ともに、県や全国の平均よりも高いです。よりよい生活づくりに参画し、多様な考えを生かそうとする児童生徒は、問題の正答率が高くなっています。

<今後の取組>

○相手の立場や考えを尊重して合意形成を図ること、自分事として物事をよく考えること、自分の強みを生かし、他者の協力を得ながら理想を求めて行動することを大切に、真の主体性の育成に努めます。

<児童生徒の意識・自己肯定感等の状況について>

- ・小学生の約79%、中学生の約87%が、自分にはよいところがあると思っています。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問事項に対して、小学生の約84%、中学生の約96%が「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。
- ・小学生の約88%、中学生の約94%が、友達関係に満足していると回答しています。
- ・小学生の約94%、中学生の約97%が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答しています。
- ・小学生の約96%、中学生の約98%が、人の役に立つ人間になりたいと回答しており、学校生活や家庭・地域での様々な経験が、明るい未来を思い描くことにつながっていると考えられます。
- ・小学生の約71%、中学生の約79%が、自分の学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思うと回答しています。教室の心理的安全性が高いと、児童生徒の主体性が発揮され、新しいアイデアが生まれるなど学びが深まるとともに、児童生徒同士の温かい人間関係の構築にもつながります。



<今後の取組>

ウェルビーイングに向かうために必要な『自己肯定感（ありのままの自分をかけがえのない存在だと受け入れる感覚）』『自己効力感（「自分ならやり遂げられる」と自分の力を信じられる感覚）』『自己有用感（「誰かの役に立っている」という関係性に基づく感覚）』を一層高めることができるようにするために、今後も人権教育をすべての教育活動の基盤として取り組むとともに、学校・家庭・地域で連携しながら以下のことを大切にしていきます。

○児童生徒の特性や思いの理解に努め、一人一人に寄り添い、よさを伸ばす指導を継続していきます。

○のびのびと学べる教室環境づくり・安心して対話できる人間関係づくり・自分らしく挑戦することができる雰囲気づくりに努めます。

○それぞれに活躍の場を設け、様々な経験を積み重ねることで、一人一人が自分の存在を認め、自分の力を信じ、人とのつながりの中で役割を実感できるようにしていきます。

【参考】全国学力・学習状況調査の問題は、以下の URL や QR コードからご覧いただけます。

「令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について：国立教育政策研究所」

<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

